

ロアッソ熊本躍進の秘訣

熊本県立宇土高等学校

要旨

昨年ロアッソ熊本はJ2リーグで4位というクラブでも最高成績を収めた。その中でも攻撃はリーグの中でもトップクラスの実力を示した。しかし、上位層を見ても、失点の数が多く1勝のところでクラブ史上初のJ1昇格を逃してしまった。そこで、守備に着目し、昨年と今年のデータを比較する。また、守備の失点シーンを可視化する。そこから守備の面をどのようにしたら改善ができ、J1昇格を果たせるかを考察する。

1. 目的

昨シーズンクラブ史上最高成績を収めたロアッソ熊本。しかし惜しくもJ1には昇格することができなかった。攻撃は、リーグ中でも圧倒的な力を示していた。しかし、守備に課題が多くあり、J1に昇格できなかった。そこで、「守備」にフォーカスして、どのようにしたらクラブ史上初のJ1に昇格できるのかを調べたいと思ったため。

2. 方法

昨年と今年の守備に関するデータを比較し、明らかに差があるものを抽出する。また、YouTubeやDAZNのハイライトや試合(フル)を見て、どのように失点しているのかを図に書いて、失点シーンの可視化をする。

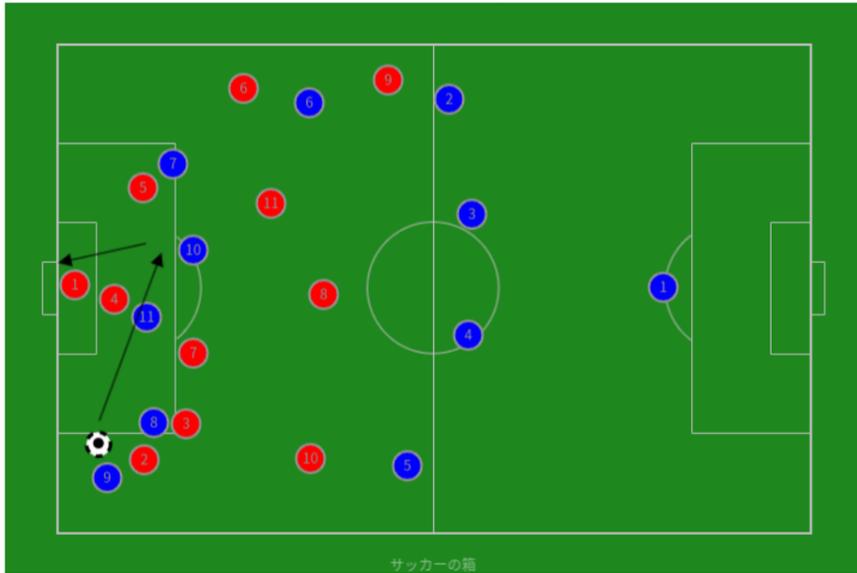
3. 結果

2022シーズン

失点数 48点 (9位)
被攻撃回数 122.9回 (20位)
被チャンス構築率 9.9% (7位)

主な失点パターン

- ・セットプレーからの失点 10点(20.8%)
- ・クロスからの失点 10点(20.8%)
- ・こぼれ球からの失点 7点 (14.6%)

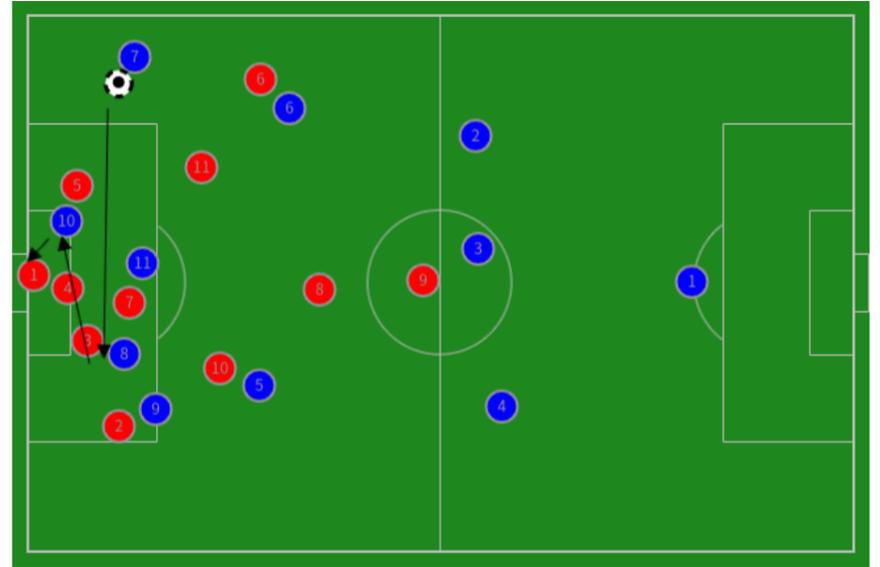


2023シーズン (11月14日現在)

失点数 58点 (11位)
被攻撃回数 119.1回 (18位)
被チャンス構築率 11.4% (14位)

主な失点パターン

- ・セットプレーからの失点 14点(26.4%)
- ・クロスからの失点 10点(18.9%)
- ・こぼれ球からの失点 6点 (11.3%)



4. 考察

結果から、2022シーズンに比べ2023シーズンは失点数が多いことがわかる。やはり、失点数が多いと順位に影響していくと考えられる。また、2022シーズンと2023シーズンの被攻撃回数が他のチームと比べ著しく少ないが、失点数が伴っていない。それは、カウンターによる失点数が多いからだと思う。ロアッソ熊本の攻撃のスタンスとして、ボールをしっかりと保持し、相手のコートでボールを支配するチームである。そのため、ミスをしたら、一気にカウンターで自陣に押し込まれ、失点につながる。また、両シーズンともにクロスからの失点が多いことが目立つ。2022シーズンはPA内にロアッソ熊本の選手が少なく、相手の選手のほうが多い。しかし、2023シーズンはPA内にはロアッソ熊本の選手は多いが、ボールホルダーに誰もプレッシャーがかけられていない。これらより、失点をするのは、相手より自分たちのミスや不足している事があり、失点していることが考えられる。

5. 感想

今回の研究を経て、比較的聞き手がわかりやすいように研究を進めていったが、少し調べ学習になってる点があった。そのため、これからの展望としては、現段階で習っている数学的な分野を用いて、データ分析をし、更に信憑性の高い研究にしていきたい。

6. 参考文献

<https://www.football-lab.jp/kuma/>

<https://footballbox.club/tactics-board.html>